

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

ドル/円相場は、来年以降に向けた長期ドル安・円高トレンドにある中、しばらくは105円～115円のレンジ相場を続けていくものと考えます。

昨年までは2012年から続いてきた長期ドル高・円安トレンドが続いていたわけですが、今年に入ってそれが終了したと判断されます。

【ドル/円 週足】



テクニカルで見て、下値を支えてきたサポートラインを下方ブレイク (①) したこと、相場の長期の方向性を示す52週移動平均線が下向き（ドル安・円高方向）に転換したことに加え、1995年以降のドル高・円安局面がほぼ2～3年サイクルで終了していることと整合します。つまり現在のドル/円相場は2012年から2015年のドル上昇に対する調整局面にあるものと考えられ、そうであれば95年以降のドル安・円高に対する調整は最短でも約1年弱続いており、今回に当てはめると2017年前半まではドル安・円高トレンドが続きそうです。

しかし、95年以降のパターンを見ると、52週移動平均線が下向きに転換した後は-10%～-14%程度まで下方乖離すると一旦下げ止まる傾向が見られ、現在の水準で計算すると下値めどは107円～102円程度となり、5月のGWでの下押しで105円台をつけていることから一旦は反発する可能性が出て来ています。

ドル/円相場のトレード戦略

また、下げ止まり後は52週移動平均線近辺まで反発する可能性があり、上値のめどは52週移動平均線のある119円水準です。ただし、上値に関しては今年3月何度も上抜けを試して跳ね返された114円～115円はきわめて強い抵抗となっており、この水準を上抜けることは難しいように思われます。

以上のことから当面は105円～115円のレンジでの上下動が続くため、レンジ内での押し目買い・戻り売りが中長期で見たメインのトレード戦略となります。

リスクシナリオとしては、

- ①マーケットにサプライズを与える新たな手段による金融緩和や日銀のドル買い・円売り介入によって115円をクリアーに上抜き120円水準まで上昇すること、
- ②米国経済の悪化により米国が利上げできない、もしくは利下げを検討するなどの要因によって105円さらには100円を下抜けてしまうこと、が考えられます。

■ 短期展望

昨日のドル/円相場は、前週末にドルが上昇し3週間ぶりの4月に入りリスク・オフの流れで円高・ドル安が続き、110円を割り込んだことで下値不安が増大し、期待された日銀の追加緩和が見送られたことで5月GWには105円台の円高水準となりました。しかし、GW期間中に105円を割り込むことが出来ずに米国の経済指標の落ち着きからショートカバーが入り、ドルは反発してきています。

4月の日銀ショックで下振れたものの、結局は米国の景気指標や米国の金融政策といった要因でドル/円は動いているといえそうです。そうであれば、米国の利上げ観測（今年後1回だけであれ）が残っているうちはドルの大きな崩れは期待しにくいように思われます。

また、GW中のドル下値トライで売り込んだドルショートポジションがまだ残っており、これがドルを下支えする要因となります。

したがって、短期でのドル/円相場は105円を割り込む円高というシナリオはリスクシナリオとして考えてはおくものの、基本的には105円～110円のレンジが続く可能性が高い様に思われます。